

大分大学医学部医学科教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)

医学部医学科では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識や能力を修得するために、次のような教育内容と方法を取り入れた教育を実施する。

<教育課程の編成と教育内容>

1. 医学科は、広く教養を学び知識の調和を保ち、総合的、自主的な判断力を養い、厳しい訓練を通じて人間の生命の尊厳に対する自覚を培い、21世紀の医学と医療の担い手として6年間で知識と技術を習得するために、以下の方針で教育課程を編成・実施する。
2. 「教養教育」では、医師としての基本的な教養や倫理観、豊かな人間性を育てる。国際的にも活躍できるよう6年間継続した医学英語教育を実施する。
3. 「専門教育」では、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を完全実施出来るカリキュラムを構築する。「基礎医学」では医学に必要な基礎的知識と技能を身に付け、「臓器別コース」では基礎と臨床を機能別に統合したカリキュラムを導入し、問題解決型学習法（PBL、チュートリアル教育）や、チーム基盤型学習（TBL）を取り入れ、問題解決能力や自己学習習慣の習得を図る。
4. 「研究室配属」では、本学あるいは国内外の研究施設で研究に従事し、科学的論理的思考やリサーチマインドを涵養する。
5. 「臨床実習前導入教育」では、臨床実習にとって必要な診察手技、診断学などの講義・実習を行い、学習によって到達した知識、技能を医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）で検証した上で、総括的評価に合格した学生が臨床実習に参画できることとする。
6. 「臨床実習」では、診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ）を実施する。さらに、地域医療に貢献する能力を身につけることを目的とした地域医療学実習、救急車同乗実習を行う。

<教育方法>

1. 将来、専門領域の優れた知識と能力を修得するための基礎として初年次に選択科目を取り入れた教養教育科目および専門基礎科目を実施する。この教育により専門領域の基礎となる学問や幅広い領域の知識や考え方を学修し、豊かな人間性や的確な判断能力、多様性の認識と受容などの能力養成をめざす。
2. 医学を効率よく学修するために、まず基礎医学コースとして正常編、病態編を総論的に学び、それぞれの臓器別に分かれた臓器別コースで基礎医学から臨床医学までを含めて各コースで包括的学修を行い、臨床医として必要な知識修得を主とした学修を行う。
3. 将来医療人として活躍するために、疾病や人体の機能を明らかにしようとする、研究マインドを要請するために、大学の研究室で約3か月間の研究活動を行う。
4. 臨床医として必要な、知識、技能、態度を要請するために、4年次後期から、実際の医療チームのメンバーとして実際の診療に参加する、診療参加型臨床実習を行う。
5. 学修期間を通して、学修者が主体的に学修が出来るように、講義でのグループ討論、チ

ュートリアル教育などのアクティブラーニングを積極的に取り入れて、学修効率が向上する方法を取り入れている。

<学修成果の評価>

1. 教育目標（知識、技能、態度）に応じて、筆記試験、レポート、実地試験、観察試験などで評価を行う。
2. 4年次には全国統一の全国医科共用試験（CBT と OSCE）の合格および、その他必要な単位履修して初めて臨床実習に参加できる。
3. 臨床実習の一部科目ではポートフォリオを用いた自己達成度を評価する。
4. 6年次には、専門教育科目ごとの卒業試験と Post-CC OSCE（臨床実習後の臨床実技試験）により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行う。
5. 全ての授業の成績、全国医科共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的に行う。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

大分大学医学部看護学科教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

<教育課程の編成と教育内容>

看護学は、人間の健康問題にかかわる身体的、精神的、社会的側面のあらゆる反応に対して、その恒常性の維持と健康の増進を図るため、Science と Art を統合した実践科学である。

看護学科は、看護学を基盤に、地域・臨床での実践、教育、管理及び研究分野において活躍する人材の育成にむけ、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる7つの能力を学修するために、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

1. 「教養教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門教育科目（看護学全般、統合分野・看護研究、臨地実習）」による編成とし、早い時期から看護学に触れる機会を提供するため、1年次から4年次までくさび型に配置する。また、学生の多様な興味と関心にそえるように選択科目を多く設ける。
2. 「教養教育科目」は、看護学を学ぼうと本質的土台となる科目群である。人間の生命の尊重、人権の尊重、人間の理解などを通して人間的成長を促す。
3. 「専門基礎科目」は、「専門教育科目」へ発展するための基盤となる科目群である。看護学の主要概念である人間、健康、環境に関する知識の修得を図る。
4. 「専門教育科目」は、専門職としての基礎を培う科目群であり、1年次から4年次までの学修過程に合わせて段階的に配置する。講義・演習では、看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得を図る。また、臨地実習では、教室で学んだことを臨地で確かめ、看護の理論と実践を有機的に統合し、看護実践能力を育成する。

<教育方法>

1. 看護実践能力の基盤を形成する講義・演習科目は、主体的に学ぶ力や学生相互に学び合う力、問題解決能力を培うため、少人数グループのアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を実施する。
2. 学生の主体的に学ぶ力を培い事前学修および事後学修を促すために、eラーニングシステムを活用した授業を設計する。
3. 臨地実習は、多様な看護実践の場において、学生個々がこれまで学んだ知識を統合し、看護の対象者に自分で考えた看護を実践・評価し、看護学の探究と自己の看護観を深める学修である。そのため、学生が主体的、能動的に実践し学べるよう臨地側指導者と教員とで協働し、学修環境を整える。
4. 臨地実習や看護研究においては、試験等では測定できない学生個々がもつ個性や可能性を考慮しながら学修状況を把握し、個別的な教育・指導を行う。

<学修成果の評価>

1. 学生を対象に各授業科目およびカリキュラム全体の教育評価に関する調査を行う。調査をとおして、学生は、授業科目の学修目標の到達度やカリキュラム履修による自己の成長を評価する。また、教員は、学生の視点や意見を把握し、担当する授業科目や

カリキュラム全体の評価を行う。

2. 2. 4 年次のローテーション実習や看護学総合実習、看護研究は、1～3 年次の学修を統合し、学生個々が主体となって看護学を探究する授業科目であるため、統合的な学修になりえているのか調査を行い、教育評価に活用する。
3. 卒業を目前にした 4 年生に対して教育評価調査を実施し、カリキュラムの履修を通じて身につけた能力や成長に対する認識、教育内容・方法についての意見を把握し、カリキュラム全体の評価を行う。
4. 保健師および看護師国家試験の結果を分析し、次年度以降の教育・指導につなげる。
5. 毎年度、カリキュラム評価報告書（各授業科目の教育評価や卒業時学生による教育評価調査等を掲載。学内ホームページにおいて公開）を作成・公表し、教育の成果と課題を検討する資料として活用する。
6. 学生が、自己の成長を適切妥当に評価できるよう学修ポートフォリオの作成・管理を促す。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

学部	医学部	学科	看護学科	最終更新日	平成2年(2020年)9月15日
----	-----	----	------	-------	------------------

ディプロマ・ポリシー

1	豊かな看護観：看護の対象となる人々に関心を寄せ、寄り添い、人間的な関係を築くことのできる豊かな感性を身につけ、看護学の学修を通して、自己の看護観を育むことができる。
2	専門的知識と技術の活用：看護学と関連諸科学の知識を基盤に人間を統合体（身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在）として理解し、看護実践を創造的に展開できる。また、看護技術を深化させることができる。
3	コミュニケーション能力：看護の対象となる人々に対して、個々の権利と多様な価値観を認め、それを基盤とした援助の人間関係を発展させることができる。また、自分自身の意見を文章・口頭で論理的に表現し、保健医療福祉チームや地域の人々と積極性と協調性をもって連携・協働することができる。
4	創造的問題解決力：看護専門職として科学的思考法を用いて看護上の問題を明確化し、創造的問題解決策の提案、実践を行い、結果を検証することができる。
5	社会的責務と倫理：看護専門職に必要な社会的責務を自覚し、一人ひとりの生命や尊厳と向き合い、対象にとってよりよい看護を考え実践することができる。
6	地域発展・人類福祉への貢献：社会の動向や国内外の各地で生じている健康課題に関心をもち、解決のための方策を考えることができる。また、専門職や地域の人々と共に解決策を考え実践することができる。
7	生涯学習力：主体的・自律的な学び方を身につけ、学際的な知的関心を持って看護の本質を探究し続けることができる。

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP							評価者	実施責任者	結果の活用方法		
								1	2	3	4	5	6	7					
1	実施中	客観試験 (国家試験)	保健師国家試験	2月 (結果3月)	毎年	卒業予定者	合格率	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・教務委員会 ・医学教育センター	・厚生労働省	合格率により看護学科カリキュラムの総括的なアセスメント指標とする。評価分析結果を次年度以降の教育・指導に資する
2	実施中	客観試験 (国家試験)	看護師国家試験	2月 (結果3月)	毎年	卒業予定者	合格率	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・教務委員会 ・医学教育センター	・厚生労働省	合格率により看護学科カリキュラムの総括的なアセスメント指標とする。評価分析結果を次年度以降の教育・指導に資する
3	実施中	成績判定資料	臨地実習履修資格判定	9月	毎年	3年次前学期終了時	3年前学期終了時までのすべての要修得科目の単位修得状況	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・教務委員会 ・医学教育センター ・医学部教授会構成員	・教務委員会 ・医学教育センター	3年後学期から始まる臨地実習の教育・指導に資する。
4	実施中	成績判定資料	年間学年別単位取得報告	4月	毎年	1年次,2年次,3年次	各年度で開講した科目の単位取得状況	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・教務委員会 ・医学教育センター ・医学部教授会構成員	・教務委員会 ・医学教育センター	前年度の科目ならびに学生別の単位取得状況を一覧にまとめ、教務委員会ならびに医学部教授会でカリキュラムの包括的な評価ならびに即時的な個別学生指導の情報とする。
5	実施中	論文	看護研究要旨集	11月 要旨提出	毎年	4年次生	看護研究要旨の内容	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・研究指導教員	・研究指導教員	学生が取り組んだ看護研究内容を概観し、学生の研究的視点や探究力をとらえる。
6	実施中	報告会	看護研究発表会	11月	毎年	4年次生	看護研究の発表の内容や態度、発表会の運営	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・研究指導教員 ・看護学科科目運営部会 看護研究班	・研究指導教員 ・看護学科科目運営部会 看護研究班	学生の研究への取り組み状況を把握し、研究指導の効果や課題を明らかにする。
7	実施中	質問紙	授業改善のためのアンケート調査	6~7月 1~2月	毎年	1~4年次生	学生の自己評価、講義内容に対する評価、教員の教授法に対する評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・高等教育開発センター	高等教育開発センターがまとめた結果を教務委員会に報告し、次年度以降のカリキュラム編成に資する。
8	実施中	質問紙	卒業時学生による教育評価調査	2月	毎年	卒業予定者	教養教育・専門基礎・専門科目に対する興味関心や意義、カリキュラム構成、教育目標到達度、看護観の自己洞察、学士課程教育の意義	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・看護学科カリキュラム部会	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。調査結果は毎年度まとめる看護学科 Course Evaluation にも掲載する。学生は、4年間（編入生は2年間）の学びの振り返りを通して自己の成長と課題を明らかにする。学士課程教育全体の成果と課題を検討する資料として活用する。
9	実施中	カリキュラム評価報告書	Course Evaluation	3月~ 5月	毎年	全学年	看護学科教員が科目責任者である各授業科目の実施状況と評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・科目責任者（看護学科教員のみ）	・看護学科カリキュラム部会	毎年度、看護学科 Course Evaluation としてまとめ、看護学科ホームページ上で学内限定公開。教員間で情報共有するとともに、カリキュラム全体の教育について学内外に説明する資料として活用する。
10	実施中	質問紙	看護学ローテーション実習評価	7月~ 8月	毎年	4年次生	ローテーションで行われる臨地実習での学修状況や学修環境の評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・看護学科実習部会	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。学生が、3年次後学期~4年次前学期の看護学実習での学修状況を振り返り、ローテーション実習を通しての成長を自己評価する。教員は、調査結果を受け、次年度の看護学実習の指導に役立てる
11	実施中	Moodle 調査	看護学総合実習評価	9月	毎年	看護学総合実習履修4年次生	看護学総合実習での学修の振り返りと目標到達状況の評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・看護学科科目運営部会 看護学総合実習班	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。学生が、看護学総合実習での学修状況を振り返り、目標到達状況の評価する。
12	実施中	教育評価報告	看護学総合実習評価	9月	毎年	看護学総合実習履修4年次生	看護学総合実習の教育効果と課題	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・看護学総合実習の各領域の科目責任者	・看護学科科目運営部会 看護学総合実習班	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。教員は、調査結果を受け、次年度の看護学総合実習の指導に役立てる。
13	実施中	Moodle 調査	看護研究評価	11月~ 12月	毎年	看護研究に取り組んだ4年次生	看護研究の学修到達度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・看護学科科目運営部会 看護研究班	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。学生が、看護研究での学修状況を振り返り、自己の成長を評価する。教員は、調査結果を受け、次年度の看護研究の指導に役立てる。
14	実施中	教育評価報告	看護研究評価	11月~ 12月	毎年	看護研究に取り組んだ4年次生	看護研究の教育効果	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・看護研究を指導した教員	・看護学科科目運営部会 看護研究班	調査結果を冊子にまとめ、看護学科会議にて報告。教員が看護研究の指導を振り返り、教育効果と課題を明らかにする。
15	検討中	学修ポートフォリオ	学修 e ポートフォリオ	1年中	毎年	全学年	DP に対する自己評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・学生	・看護学科カリキュラム部会 ・教務委員会看護教育部会	学生の自己評価と省察を次年度以降のカリキュラム編成に資する。